Asada

環境を守る親切ツール

高圧洗浄機
12/80G・12/80GP

取扱説明書

高圧洗浄機
12/80G

高圧洗浄機
12/80GP

【ご使用前に必ず本書をお読みください。】

IM1506

安全にご使用いただくために

このたびは、高圧洗浄機１２／８０Ｇをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

- ●この取扱説明書は、お使いになる方に必ずお渡しください。
- ●ご使用前に必ず本書を最後までよく読み、確実に理解してください。
- ●適切な取り扱いで本機の性能を十分発揮させ、安全な作業をしてください。
- ●本書は、お使いになる方がいつでも取り出せるところへ保管してください。
- ●本機を使用用途以外の目的で使用しないでください。
- ●商品が届きましたら、ただちに次の項目を確認してください。
  - ・ご注文の商品の仕様と違いはないか。
  - ・輸送中の事故などで破損、変形はしていないか。
  - ・付属品などに不足はないか。

万一不具合が発見された場合は、至急お買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

（本書記載内容は、改良のため予告なしに変更することがあります）

警告表示の分類

本書および本機に使用している警告表示は、次ぎの３つのレベルに分類されます。

⚠危険	本機に接触または接近する使用者、第三者等がその取り扱いを誤ったり、その状況を回避しない場合、死亡または重傷を招く可能性が高い危険な状態。
⚠警告	本機に接触または接近する使用者、第三者等がその取り扱いを誤ったり、その状況を回避しない場合、死亡または重傷を招く可能性がある危険な状態。
⚠注意	本機に接触または接近する使用者、第三者等がその取り扱いを誤ったり、その状況を回避しない場合、軽症または中程度の傷害を招く可能性がある危険な状態。または、本機に損傷をもたらす状態。

記号

目次

安全にご使用いただくために ―――― 1
警告表示の分類 ―――― 1
記号 ―――― 1
安全上のご注意 ―――― 3
1.製品の構成 ―――― 7
　1）各部の名称 ―――― 7
　2）仕様 ―――― 8
　3）標準付属品 ―――― 8
　4）別販売品 ―――― 9
2.使用方法 ―――― 10
　1）洗浄作業前の準備 ―――― 10
　　1-1)使用環境 ―――― 10
　　1-2)設置 ―――― 10
　　1-3)燃料の補給 ―――― 11
　　1-4)ホース類の接続 ―――― 12
　2）運転 ―――― 14
　　2-1)初めて使用する場合 ―――― 14
　　2-2)始動方法 ―――― 15
　　2-3)洗浄作業 ―――― 16
　　2-4)作業の終了 ―――― 18
3.保守・点検 ―――― 19
　1）エンジン関係の点検 ―――― 19
　2）ポンプオイルの点検 ―――― 20
　3）ラインストレーナおよび
　　ストレーナの点検 ―――― 21
　4）トリガーガンのノズル清掃 ―――― 21
　5）洗管ホースのノズル清掃 ―――― 21
4.修理を依頼される前に ―――― 22

安全上のご注意

■ここでは、本機を使用するにあたり注意していただきたい一般的な注意事項を示します。
■作業要所での詳しい注意事項は、この後の各章で記載しています。

⚠危険

爆発

◆燃料を補給する際は、必ずエンジンを停止し2～3分間エンジンを冷却させてから、換気の良い場所で行ってください。

◆可燃性液体（シンナー等）やガスのある場所で使用しないでください。

☆点火プラグ等のスパークが爆発や火災の原因になります。

◆燃料の補給中、燃料タンクの近くではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。

火災

☆誤って引火しますと、爆発、火災の原因になります。

◆燃料をこぼさないように注意し、所定ラベル以下に燃料を補給し、燃料キャップを確実に締めてください。

☆燃料キャップが締まっていませんと、本機が転倒した際、燃料がこぼれて危険です。

ガス注意

☆燃料がこぼれた際は、すぐに布きれなどで拭き取ってください。

◆酸素欠乏症や排気ガス中毒を防止するため、換気の良い場所に設置してください。

☆換気の悪い場所で使用しますと、酸欠で窒息する恐れがあります。

☆絶対に排気ガスを吸わないようにしてください。

☆やむを得ず屋内で使用する場合には、十分な換気が行われていることを必ず確認してください。

分解禁止

◆修理技術者以外は絶対に分解しないでください。

◆改造は絶対に行わないでください。

☆異常な動作の原因となり、ケガや故障の原因となります。

◆薬剤（薬品）を混合して使用する場合は、ガソリン・シンナー等の有機溶剤や、強酸性溶剤・強アルカリ性溶剤の他、劇物・毒物などは絶対に使用しないでください。

劇物

☆思わぬ事故を招く原因になります。特殊な薬剤（薬品）などを使用される場合には、必ず販売店または弊社に問い合わせのうえ安全を確認してから使用してください。

⚠ 危険

火傷

◆運転中や停止直後は、エンジン本体やマフラー等が大変高温になっています。使用後の、部品交換・清掃・点検時は必ずエンジンを停止し2～3分間エンジンを冷却させてから行ってください。

☆火傷をする恐れがありますので絶対に触れないでください。

◆バリアブルガンを絶対に人や動物、電気器具類に向けないでください。

☆誤って噴射すると大変危険です。

☆本機や他の電気器具、電源などに噴射すると、ショートしたり感電する恐れがあります。

高圧水

◆バリアブルガンのトリガーを引いたままの状態で固定しないでください

☆不意に電源が入ると高圧水が噴射され危険です。

◆ガラスなどの粉砕されやすい物に向けて噴射する場合は、十分注意して行ってください。

☆対象物が粉砕、破壊されて危険です。

⚠ 警告

取扱説明書

◆この取扱説明書を事前によく読み、正しい取り扱い方法を十分にご理解のうえ、操作してください。

◆本機を操作する前に、必ず本取扱説明書P．10「使用方法」の作業行ってください。

◆間違いなく取り扱うため、各部の操作に慣れ素早い停止方法を習得してください。

◆エンジンに関する取り扱い方法は、付属のエンジンの取扱説明書にしたがってください。

◆本書、および弊社カタログに記載されている指定の付属品や別販売品以外は使用しないでください。

☆事故の原因となります。

◆本機を落としたりぶつけた場合は、破損・亀裂・変形などがないか点検してください。

☆破損・亀裂・変形などがある状態で作業を行うと、けがや事故の原因となります。

⚠ 警告

その他

◆関係者以外は、作業場所に近づけないでください。特にお子様には、十分注意し絶対に触らせないでください。

◆疲労・飲酒・薬物等の影響で作業に集中できないときは、操作しないでください。

◆本機を操作しないときは、乾燥した場所で子供の手が届かない、または鍵のかかる場所に保管してください。

◆結果の予測ができない、また確信の持てない取り扱いはしないでください。

◆本機を使用目的以外の用途には使用しないでください。

高圧水

◆噴射を停止してエンジンを切っても、ポンプ内や高圧ホースには残留した高圧水がありますので、一度トリガーを引いて内部の圧力を逃がしてください。

☆不意に、トリガーが引かれると高圧水が噴射して危険です。

◆エンジンの排気口をふさいだり、周辺に物を置かないようにしてください。

☆火災の原因になります。

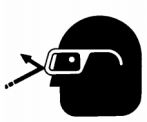
火災

◆バリアブルガンの取り扱いには十分注意し、不意の噴射による事故防止に心がけてください。

◆本機から離れるときや、保守・点検のときにはエンジンを停止し、スイッチをOFFにしてください。

☆思わぬ事故の原因になります。

保護具



◆目を保護するために、必ず保護メガネを着用してください。

☆作業中は、ゴーグルなど保護メガネを着用してください。噴射水が砂や泥などと一緒に跳ね返ってくることがあります。

◆作業場所は整理・整頓し、いつもきれいな状態で十分な明るさを保ってください。

☆作業環境が悪いと事故の原因になります。

⚠ 注意

取扱
説明書

◆冬季など0℃以下になる場所では、必ず水抜きを行ってください。（P. 18「作業の終了」を参照）また、0℃以上の屋内に保管するようにしてください。

☆ポンプが凍結して損傷する恐れがあります。

◆本書のP. 19「保守・点検」に従い、各部の保守、点検を行ってください。

◆本機の異常（異臭・振動・異常音など）に気づいたときは、ただちに運転を停止し、本書のP. 22「修理を依頼される前に」を参照してください。また、むやみに分解せず点検や修理を依頼してください。

☆修理はお買い上げの販売店または、弊社へお申しつけください。

◆水道に直結して使用する場合は、地方自治体の水道法の法的規制を受ける場合があります。

☆詳細については、所轄の自治体にお尋ねください。

◆泥水等は使用しないで、必ず清水を使用するようにしてください。

☆ポンプの故障の原因となります。

◆運転中、ポンプより少量の水が漏れることがありますが、1 分間に5滴程度までの水漏れは故障ではありません。

☆それ以上の水漏れが発生している場合には、販売店または、弊社へ連絡してください。

◆長期間（30日間以上）使用しない場合は燃料を完全に抜いて保管してください。

☆上記を実施せず保管しますとエンジンが始動しないことがあります。

◆圧力の調整は、必ず所定の範囲内で行うようにしてください。

☆上げ過ぎや下げ過ぎは故障の原因になります。

◆通常、エンジン始動後10秒間程度で吸水します。それ以上経過しても吸水しない場合は、異常が想定されますので運転を中止して原因を調べてください。（P. 22「修理を依頼される前に」を参照）

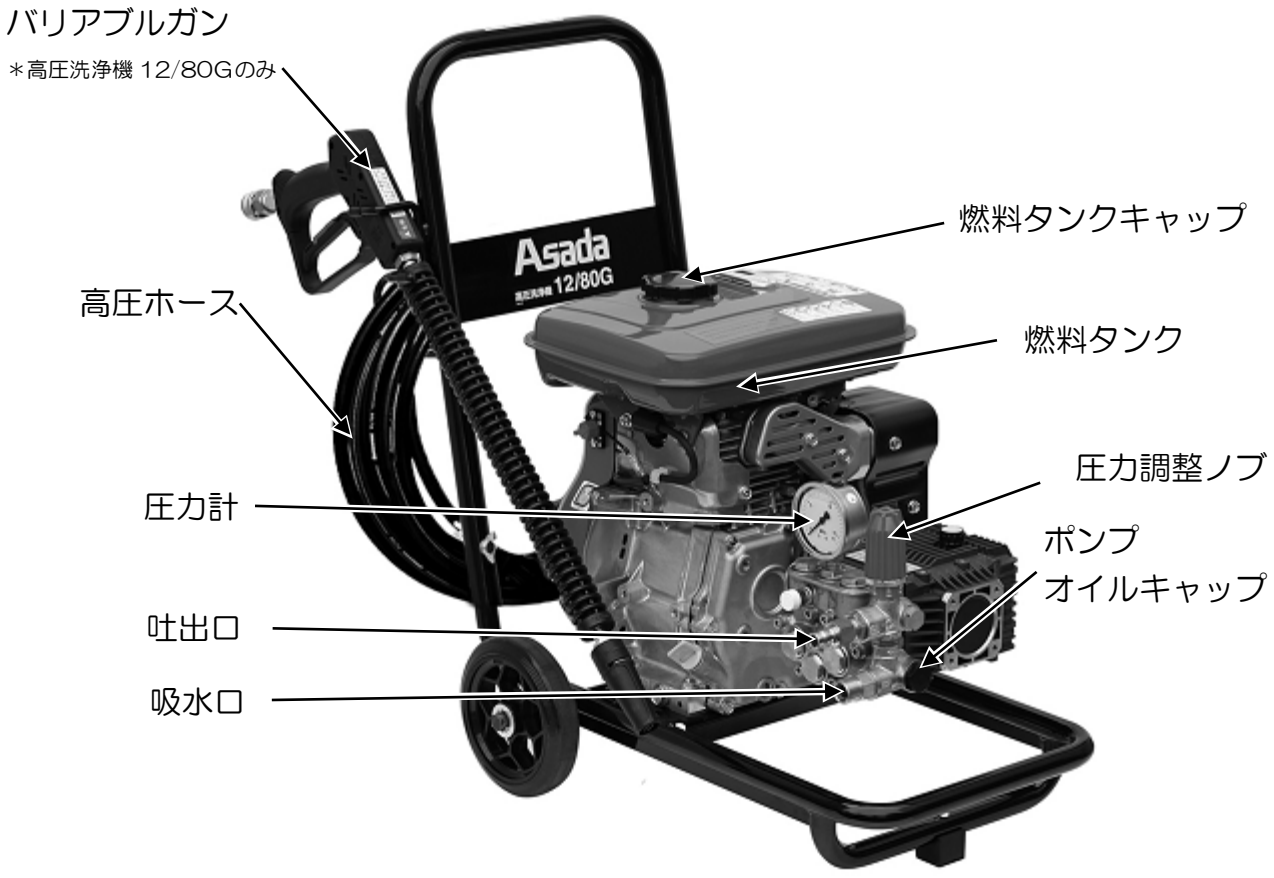
◆作業前には、必ずバリアブルガン・高圧ホース・洗管ホースなど各付属品を点検してください。

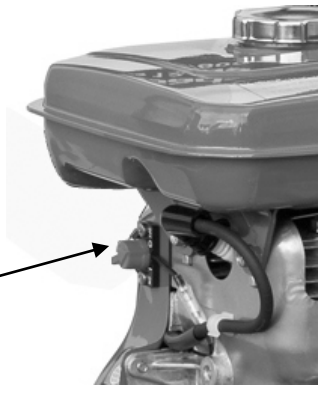
☆これらの付属品に損傷があった場合、高圧水が噴出します。特に洗管ホースに損傷があった場合作業中に先端部が破損し、パイプ内に部品が残る場合があります。

1．製品の構成

1）各部の名称

□本機には、警告ラベルが貼付してあります。安全確保のための説明が書かれていますのできれいに保ち、はがれたり見づらくなった場合には弊社へ請求してください。そして、必ず同じ場所に貼付してください。





2）仕様

製品名	高圧洗浄機１２/８０Ｇ　／　高圧洗浄機１２/８０ＧＰ
コードNo.	ＨＤ１２８　／　ＨＤ１２０８Ｐ
型　　式	空冷式４サイクルガソリンエンジン
出　　力	２．１ｋＷ
排 気 量	１２１ｃｃ
始動方式	リコイルスタータ
点火方式	トランジスタ式マグネット点火
回 転 数	１８００ｍｉｎ$^{-1}$
吐出水量	１２Ｌ／ｍｉｎ
圧　　力	７．８ＭＰａ
給水可能温度	最高４０℃
使用オイル	４サイクルエンジンオイル　　ＳＡＥ３０番，１０Ｗ－３０
給水方式	自吸式・水道直結式
質　　量	３０．０ｋｇ
大 き さ	Ｌ７３０×Ｗ４１０×Ｈ７５０（mm）

3）標準付属品

コードNo.	部品名
－	本体
ＨＤ０３１２１	取扱説明書
ＨＤ３３０３０	点火プラグ用ボックススパナＡ
ＩＭ０２４１	ロビンエンジン取扱説明書
ＨＤ２１３	吸水ホース組
ＨＤ０３００２	高圧ホース３／８″×１０ｍ
ＨＤ０３００７	バリアブルガン（12/80Gのみ）
ＨＤ０３１５１	ハンドガン（可変ノズル仕様）　（12/80GP のみ）
ＨＤ０３１５２	バリアブルノズル（12/80GP のみ）
ＨＤ０３１５４	SUS 洗管ホース１/４″×２０ｍ（12/80GP のみ）

4）別販売品

コードNo.	部　品　名
HD03115	高圧ホース1／4″ ×10m
HD03116	高圧ホース1／4″ ×20m
HD03117	高圧ホース1／4″ ×30m
HD03001	高圧ホース3／8″ ×5m
HD03002	高圧ホース3／8″ ×10m
HD03003	高圧ホース3／8″ ×20m
HD03004	高圧ホース3／8″ ×30m
HD03005	高圧ホース3／8″ ×40m
HD03006	高圧ホース3／8″ ×50m
HD03008	デュアルガン
HD03009	タービンガン
HD03010	サンドブラストキットA
HD03011	回転ブラシガン
HD03012	ハンドガン
HD03013	残水処理キット
HD03014	洗管ホース1／4″ ×10m
HD03015	洗管ホース1／4″ ×20m
HD03016	SUS洗管ホース1／4″ ×10m
HD03017	SUS洗管ホース1／4″ ×20m
HD03169	PU洗管ホース1／4″ ×10m
HD03170	PU洗管ホース1／4″ ×20m
HD03171	PS洗管ホース1／4″ ×10m
HD03172	PS洗管ホース1／4″ ×20m
HD013	水道直結ホース5m
HD03020	ホースリール別置用
HD03021	洗管用コックキット

2．使用方法

1)洗浄作業前の準備

1-1)使用環境

□次の使用環境を十分考慮して、『設置』・『燃料の補給』・『ホース類の接続』を行ってください。

★直射日光があたる場所、雨中、内部に水が入りやすい場所では使用しないでください。

★本機は排気ガスを出します。密閉された部屋では使用しないでください。また、やむを得ず屋内で使用する場合には吸排気口（吸排気ファン）を取り付けてください。

★ガソリンなどの可燃物が存在する付近では使用しないでください。

★給水設備が適切な容量であることを確認してください。（毎分１３ﾘｯﾄﾙ以上）

★本機を設置して使用する場合には保守・点検が容易に行える場所に設置してください。

★使用する燃料は、新鮮な自動車用レギュラーガソリン以外は絶対に使用しないでください。

★各ホース類や接続部に異常がないことを確認してから運転するようにしてください。

1-2)設置

⚠注意

その他

◆換気が不十分な場所、オイルや燃料漏れのある場所、引火性ガスがある場所などには、絶対に設置しないでください。

◆本機は重量物です。フォークリフトなどで運搬するようにし、人力での上げ下げや吊金具での運搬は行わないでください。

□設置する床が丈夫で水平な場所を選定してください。

□キャスタに回り止めなどの処置を実施し、不意の移動がないようにしてください。

①台車のハンドル取り付け部にハンドルを差し込んでください。

②ハンドル固定ねじで確実に固定してください。固定が緩いと、エンジンの振動でハンドル固定ねじがはずれます。

1－3)燃料の補給

A．ガソリンの補給

⚠ 危険

その他

◆ガソリン補給後は、タンクキャップを確実に締めてください。

◆入れ過ぎは危険ですので規定レベルよりやや控えめに入れてください。

□本機の燃料は、出荷時給油されていません。初めて運転する場合にはエンジンの取扱説明書にしたがって、燃料を給油してください。

★燃料は新鮮な自動車用のレギュラーガソリンを使用してください。

B．エンジンオイル

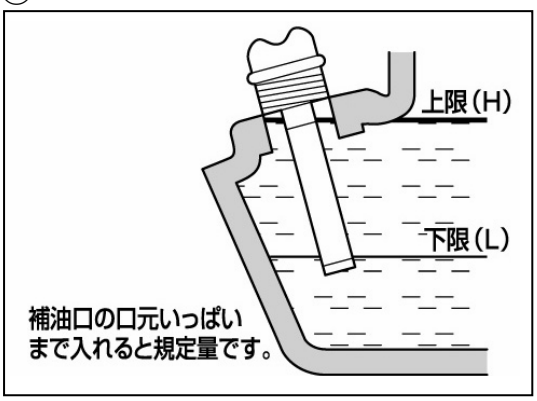
□本機のエンジンオイルは、出荷時給油されています。初めて運転する場合には念のためエンジンの取扱説明書にしたがって、エンジンオイル量の確認（①）を行ってください。

★エンジンオイル量が不足していましたら、エンジンの取扱説明書にしたがって補充してください。

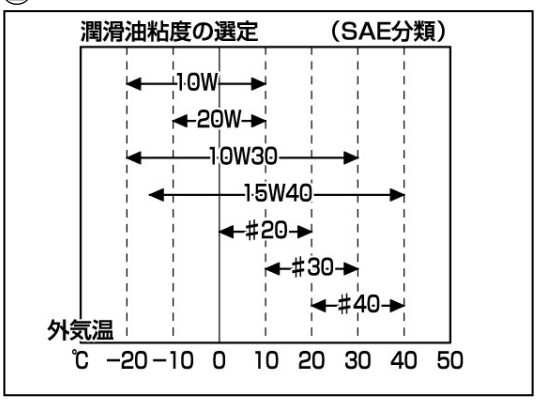
★エンジンオイルが汚れていましたら、エンジンの取扱説明書にしたがって交換してください。

□出荷時に給油されていますエンジンオイルはＳＡＥ１０W-３０クラス品です。このエンジンオイルは、低温時(気温が－２０℃)から高温時(気温が４０℃)まで広範囲で使用できますが、特に低温・高温地域でご使用の場合には、下記表②を参考にエンジンオイルを選定してくてください。

①



②



C．ポンプオイル

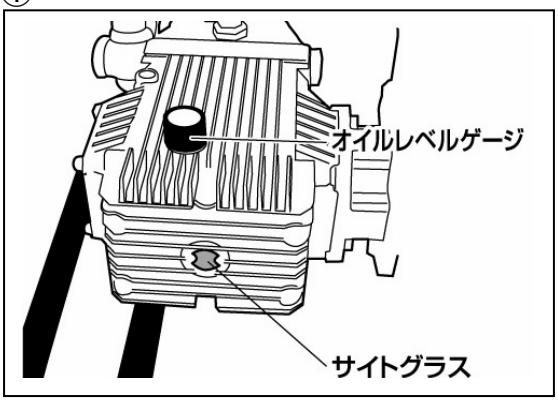
□本機のポンプオイルは、出荷時給油されています。初めて運転する場合には、念のためポンプの背面にありますサイトグラス（①）でポンプオイルが充填されていることを確認してください。

□オイルレベルゲージ（①）にて、ポンプオイルが不足しているようであれば補充してください。汚れているようであれば交換してください。

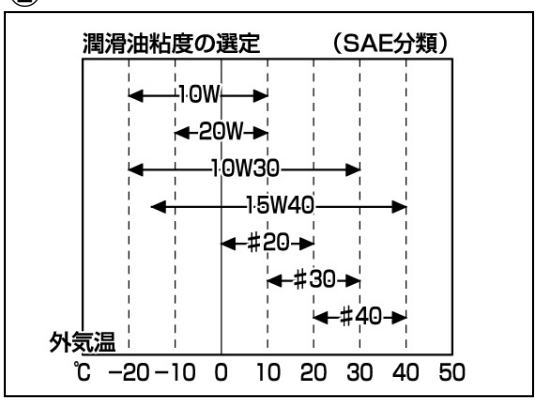
★オイルは、自動車用エンジンオイルを使用し、適量は約０．４Ｌです。

★出荷時に給油されているポンプオイルは、ＳＡＥ１０Ｗ-３０クラス品です。補充される際は使用しているエンジンオイルと同じ物（②）を使用してください。

①



②



1-4)ホース類の接続

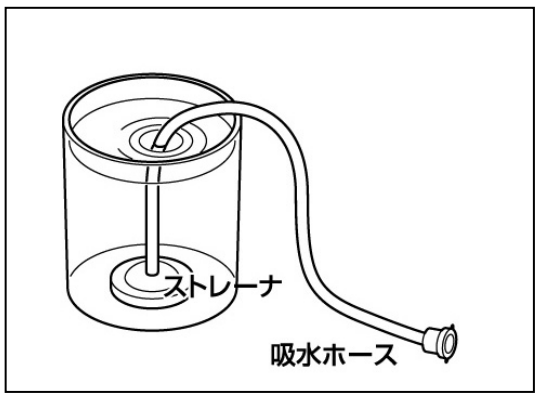
A．吸水ホース他の準備

①吸水ホースを、本体の吸水口へ確実にねじ込んでください。

②吸水口内にラインストレーナが挿入されていることと、吸水ホース金具にパッキンが入っていることを確認してください。

・パッキンが入っていないと吸水しません。

③ストレーナは、完全にタンク内に沈めて、空気を吸わないようにしてください。浮いていると空気を吸って十分な性能が出ません。



B．高圧ホース・バリアブルガンの取り付け

⚠ 危険

その他

◆接続は確実に実施してください。

☆差し込みが不十分ですと高圧水が噴出して危険です。

◆ロックは必ず実施してください。

☆不意に接続が外れますと、けがをする恐れがあります。

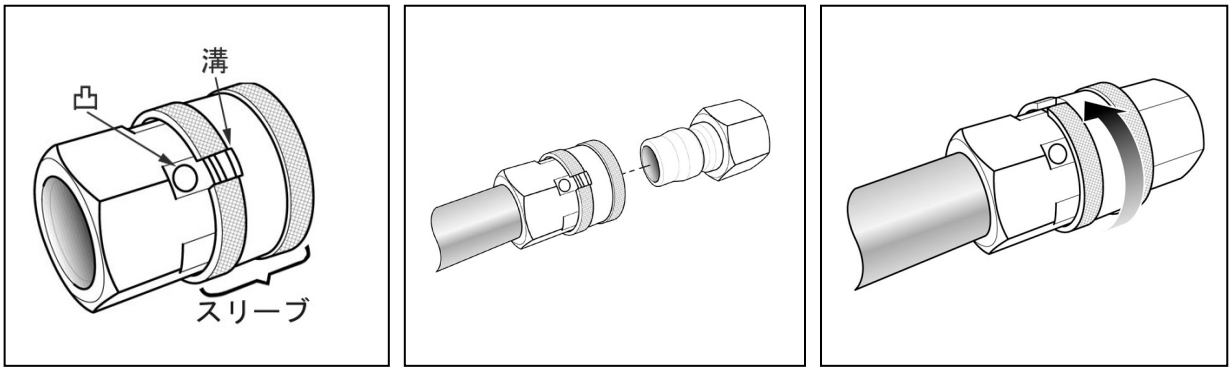
◆接続時に各金具に付けられているパッキン類に損傷がないことを確認してください。

☆パッキン類に損傷がありますと能力が出ないだけでなく、高圧水が噴出して危険です。

◆ホースを接続したまま強く引っ張らないでください。

☆接続部がゆるんで圧力漏れの原因になります。

①高圧ホースのメスカプラの溝と凸部分を合わせてスリーブを引き、ポンプ吐出口に挿入し、スリーブを戻します。
②スリーブを回し、カプラをロックします。
③ガン根元のメスカプラの溝と凸部分を合わせてスリーブを引き、高圧ホースに挿入し、スリーブを戻します。
④スリーブを回し、カプラをロックします。



2）運転

2-1）初めて使用する場合

□新しいうちは各部がなじんでいませんので、無理な使い方をすると洗浄機の寿命を短くします。運転開始後約２０時間くらいまでは慣らし運転期間として次のことを守ってください。

①始動後、約２～３分間はエンジンが温まるまで暖機運転を行なってください。
②慣らし運転期間は、エンジンに無理な負荷がかからないようにし、過負荷運転はさけてください。
③運転開始後約２０時間目のエンジンが暖かいうちにオイル交換を行なってください。
・オイル交換はエンジンが暖かいうちに行わないと古いオイルが完全に排出されません。
④運転開始後約２０時間目のオイル交換後は、５０時間ごとにオイル交換を行なってください。

⚠注意

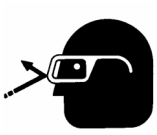
火傷

◆エンジン停止直後のエンジンオイルは高温になっています。
オイル交換の際は充分に注意してください。
☆火傷をする恐れがあります。

2-2)始動方法

⚠ 危険

保護具



◆目を保護するために、必ず保護メガネを着用してください。

☆作業中は、ゴーグルなど保護メガネを着用してください。噴射水が砂や泥などと一緒に跳ね返ってくることがあります。

◆通常、エンジン始動後10秒間程度で吸水します。それ以上経っても吸水しない場合は、異常が想定されますので運転を中止して原因を調べてください。(P. 22「修理を依頼される前に」を参照)

その他

作業前には、必ずバリアブルガン・高圧ホース・洗管ホースなど各付属品を点検してください。

☆これらの付属品に損傷があった場合、高圧水が噴出します。特に洗管ホースに損傷があった場合作業中に先端部が破損し、パイプ内に部品が残る場合があります。

高圧水

◆バリアブルガンを絶対に人や動物、電気器具類に向けないでください。

☆誤って噴射すると大変危険です。

☆本機や他の電気器具、電源などに噴射すると、ショートしたり感電する恐れがあります。

◆バリアブルガンのトリガーを引いたままの状態で固定しないでください

☆不意に、トリガーが引かれると高圧水が噴射され危険です。

◆ガラスなどの粉砕されやすい物に向けて噴射する場合は、十分注意して行ってください。

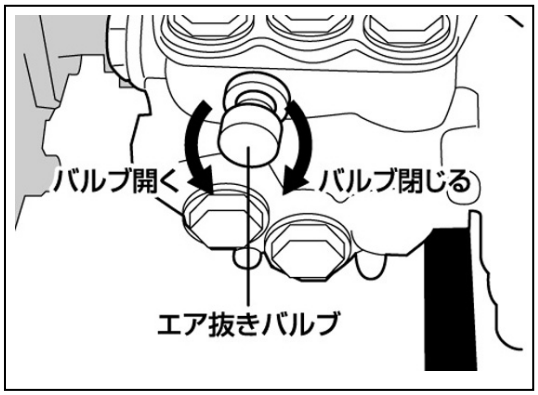
☆対象物が粉砕、破壊されて危険です。

①エンジンの始動方法は、エンジンの取扱説明書にしたがってください。

②本機には、エア抜きバルブが付いていますので、エンジンを始動する際は必ずエア抜きバルブを開いた状態で始動させるようにしてください。

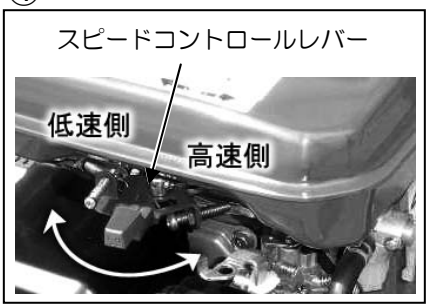
・エア抜きバルブを閉じた状態で始動しますとエンジンのリコイルスタータの始動ノブが重く、エンジンが始動しない場合があります。

・洗管ホース（別販売品）を使用する場合は、必ずエンジン始動前に洗管ホースのコックを閉じておいてください。

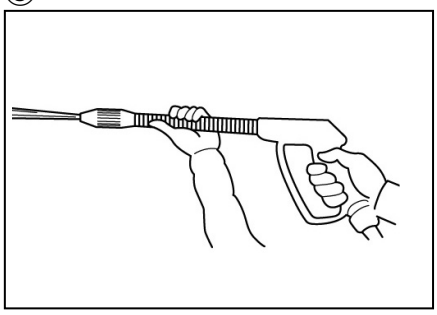


③エンジンが始動しましたら、エア抜きバルブから水が出ていることを確認した後、エア抜きバルブをしっかり閉め、暖機運転を２～３分行ってください。
④エンジンのスピードコントロールレバーを高速側にしてください。
⑤ガンのトリガーを引くと、ノズル部分より高圧水が噴射されます。

④

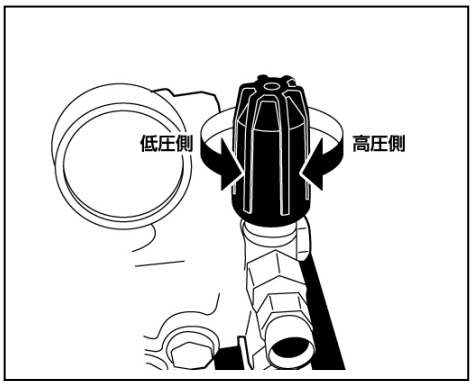


⑤



2-3)洗浄作業

□圧力調整は必ず所定の範囲内(最高圧力 7.8MPa)で行なうようにしてください。圧力調整を行なった場合は、必ず付属の圧力計で圧力を確認してください。
★調整範囲は 1.9～7.8MPa です。調整範囲外の圧力で運転すると洗浄機が故障するだけでなく、事故につながる恐れがあります。
★圧力の調整は必ずエンジンを停止させ、バリアブルガンのトリガーを一度引いてポンプ内、高圧ホース内の圧力を抜いてから行なうようにしてください。



A. バリアブルガン（高圧洗浄機 12/80Gの標準付属品）およびデュアルガン（別販売品）タービンガン（別販売品）の使用方法

⚠ 危険

その他

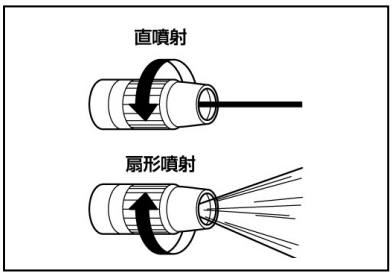
◆ガンを絶対に人や動物、電気器具類に向けないでください。
☆誤って噴射すると大変危険です。
☆本機や他の電気器具、電源などに噴射すると、ショートしたり感電する恐れがあります。
◆トリガーを針金等で縛り、引いた状態で絶対に固定しないでください。
☆不意に電源が入ると高圧水が噴射され危険です。
◆トリガー部のストッパーは、不意にトリガーが引かれて事故になることを防止しています。作業を行わない場合は必ずロックをしてください。

□トリガーを引くと直ちに噴射し、トリガーを戻すと噴射が停止します。

A-1)バリアブルガン（高圧洗浄機 12/80Gの標準付属品）

□ノズル先端部のカバーを回転させることによって、直噴射（0°）から扇状噴射（80°）まで自由に変更することができます。

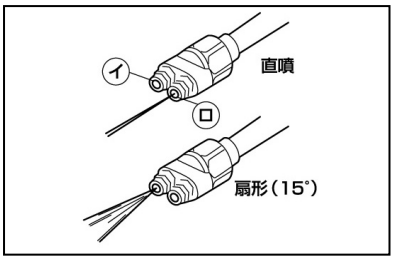
・噴射の状態は作業によって使い分けてください。



A-2)デュアルガン（別販売品）

□ガンを右（イ側）に傾けると直噴射（0°）になり、左（ロ側）に傾けると扇形噴射（１５°）になります。

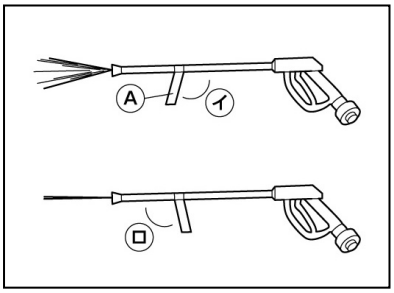
・噴射の状態は作業によって使い分けてください。



A-3)タービンガン（別販売品）

□レバー（A）をガン先端方向（イ）へ動かすと円錐形噴射になり、手前方向（ロ）へ動かすと直噴射になります。

・噴射の状態は作業によって使い分けてください。



B-1）洗管ホース（高圧洗浄機 12/80Gで別販売品を使用する場合）の使用方法

⚠ 注意

その他

◆必ず高圧ホースに接続してください。

☆ポンプ吐出口に接続しますと、アンローダバルブが破損します。

◆洗管ホースを引き戻す際、エルボ等継手に引っかかる場合があります。この場合、無理に引っ張りますと先端のノズル等が外れることがあります。引っかかった場合は、慎重に引き戻し、再度前進後退を繰り返してください。

☆外れた物が配管内に残る可能性があります。

①洗管ホースを高圧ホースに接続し、コックを閉じます。

・コックは、レバーとホースが垂直の位置で全閉となり、平行の位置で全開となります。

②洗管ホース先端を洗浄対象のパイプの中へ１m程度挿入します。

③エンジンを始動し、洗管ホースをしっかりと保持してコックを開きます。

④洗浄作業を開始します。

・洗管ホースは水圧によって自ら進んでいきますが、引き戻したりして前進後退を繰り返すことによって、洗浄効率がより高くなります。

B-2）洗管ホース（高圧洗浄機 12/80GPの場合）の使用方法

①高圧ホースにハンドガン（可変ノズル仕様）を接続します。
②ハンドガン（可変ノズル仕様）に洗管ホースを接続します。
③洗管ホース先端を洗浄対象のパイプの中へ１m程度挿入します。
③エンジンを始動し、ハンドガン（可変ノズル仕様）と洗管ホースをしっかりと保持しハンドガンのトリガーを引くと洗管作業を開始します。
・洗管ホースは水圧によって自ら進んでいきますが、引き戻したりして前進後退を繰り返すことによって、洗浄効率がより高くなります。

2-4）作業の終了

⚠ 危険

高圧水

◆噴射を止めてエンジンのストップスイッチをOFFにした後、必ず一度トリガー引いてバリアブルガンと高圧ホースの残圧を抜いてください。
☆不意にトリガーが引かれた際、高圧水が噴射され危険です。
☆残圧が残っている場合、再始動できない場合があります。

◆洗浄作業中はエンジンを停止しないでください。必ず、しばらくの間無負荷運転を実施してから、エンジンを停止させてください。
☆作業中にエンジンを停止しますと、急激にエンジンの温度が上昇し、寿命が短くなります。
☆排気消音器内で、未燃焼のガソリンに引火して爆発音がでたり、炎が噴出する場合がありますが異常ではありません。

その他

◆空運転は30秒以上行わないでください。
☆ポンプが破損する恐れがあります。

①タンクから吸水ホースを取り出し、一度トリガーを引き高圧ホース内の圧力を逃がしてからバリアブルガンを外してください。
②低速状態で約３０秒空運転を実施し、エンジンのストップスイッチをＯＦＦにして停止させてください。
③リコイルスタータの始動ノブを重く感じる位置までゆっくり引き、元の位置までゆっくり戻します。
④ポンプ吐出口より高圧ホースを外し、吸水口より吸水ホースを取り外してください。
・各部に損傷がないことを確認して安全な場所に保管してください。
・このような対策を実施しない場合、ガソリンが劣化してキャブレターが詰まり、次回エンジンが始動しなくなります。

3．保守・点検

□高圧洗浄機をいつも調子よく使い、長持ちさせるには日常の手入れが大切になります。点検時間は下表にしたがって励行してください。●印は、技術や特殊工具が必要ですので、お買い上げの販売店や弊社営業所に問い合わせください。

定期点検表

項目＼運転時間	毎日	２０時間ごと	５０時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	500時間ごと	1000時間ごと
各部ボルトナットの点検・締め付け	○					●※３	
エンジンオイルの点検・補給	○						
エンジンオイルの交換		○※１	○※２				
ポンプオイルの点検・補給	○						
ポンプオイルの交換			○※１		○※２		
油漏れの点検	○						
エアクリーナの清掃			○50時間ごと （ホコリの多い場所で運転する場合は早めに清掃する）				
ラインフィルタの清掃			○				
点火プラグの点検・清掃					○		
気化器の点検・清掃						●	
吸排気弁隙間調整					●３００時間ごと		

※１ ： 第１回目　※２ ： 第２回目　※３ ： ヘッドボルト増し締め

1)エンジン関係の点検

□エンジンオイルの点検・交換は、エンジンの取扱説明書にしたがってください。

・エンジンオイルが汚れていたり少なかったり品質の悪いオイルを使用しますと、エンジンの寿命が短くなります。常に良質できれいなオイルを規定量保つように心掛けてください。

□点火プラグやその他の点検･調整・交換はエンジンの取扱説明書にしたがって行い何か異常がある場合はお買い上げの販売店、もしくは弊社営業所まで連絡をお願いします。

2)ポンプオイルの交換

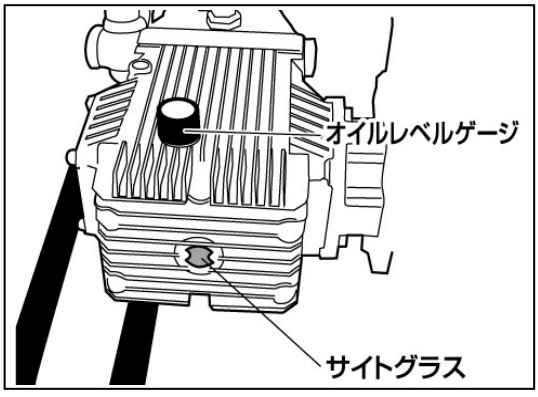
⚠ 危険

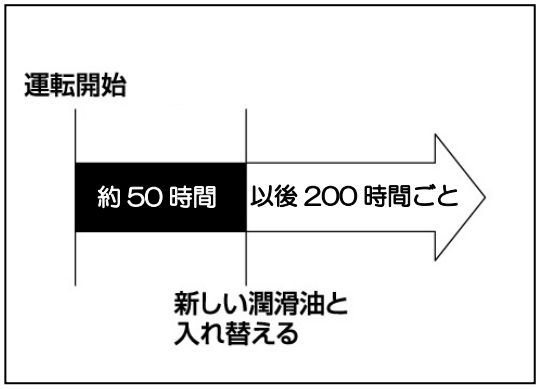
火傷

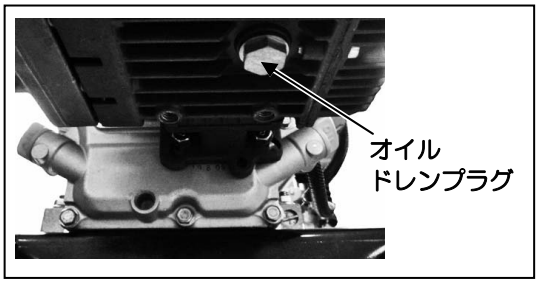
◆熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがあります。
☆オイルに直接触れないでください。
◆作業終了直後は、高圧ポンプ・エンジン共に高温になっていますので、火傷に十分注意してください。
◆オイル交換後は確実にドレンプラグとオイルキャップを確実に締めてください。

□ポンプオイルを点検したとき、オイルが白濁・変色している場合には交換時期に達していない場合でも、ポンプオイルを交換してください。
□ポンプオイルの排出を高率よく行うために、交換作業は洗浄作業完了後のポンプオイルが暖かいうちに行ってください。
□ドレンプラグの下にオイル受けを用意し、ドレンプラグを取り外してポンプオイルを抜いてください。

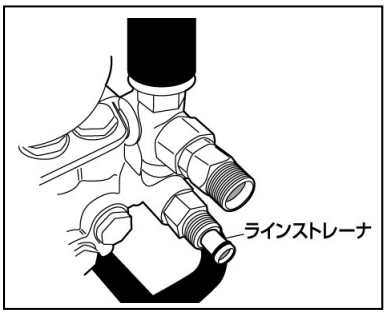
ポンプオイル交換時期	１回目	運転５０時間後
	２回目以降	運転２００時間後
オイルの種類		４サイクルエンジンオイルＳＡＥ－１０W３０ またはＳＡＥ３０番のいずれかのグレード







3)ラインストレーナおよびストレーナの点検



□点検・清掃時は、ストレーナやラインストレーナの金網を損傷しないよう慎重に行ってください。万一、損傷がある場合には、必ず新品と交換してください。

□長期間（１ヶ月以上）使用しなかった場合は、必ず使用前にラインストレーナを点検・清掃してください。

□本機は、吸水ホースのストレーナのほかに、ポンプの吸水口にラインストレーナを設けています。これは、より細かいゴミを取り除くための物で、時々点検を実施してください。下記の症状が発生しましたら、吸水ホースのストレーナとラインストレーナを清掃してください。

・まったく吸水しない。または、断続的に吸水している。
・高圧ホースが異常に振動する。
・圧力が既定値まで上昇しない。
・圧力が安定しない。

4)バリアブルガンのノズル清掃

□バリアブルガンのノズル穴が詰まった場合は、ノズル穴にφ１．１mm以下の棒などを挿し込んで、回しながら詰まりを取り除いてください。ノズルを棒で掃除しても詰まりが取れない場合や、ノズルを交換する場合は、お買い上げの販売店もしくは弊社営業所まで連絡をお願いします。

□ノズルは、消耗品です。他の部分に異常がなく、圧力が低い場合はノズルの消耗による交換が必要と考えられますので、交換作業を実施してください。交換の頻度は、水道のミネラル類の含有量によって異なりますが、おおよそ既定圧力より８５%以下になりましたら交換が必要です。

5)洗管ホースのノズル清掃

□洗管ホースのノズル穴が詰まった場合は、ノズル穴にφ０．９mm以下の棒などを挿し込んで、回しながら詰まりを取り除いてください。ノズルを棒で掃除しても詰まりが取れない場合や、ノズルを交換する場合は、お買い上げの販売店もしくは弊社営業所まで連絡をお願いします。

□ノズルは、消耗品です。他の部分に異常がなく、圧力が低い場合はノズルの消耗による交換が必要と考えられますので、交換作業を実施してください。交換の頻度は、水道のミネラル類の含有量によって異なりますが、おおよそ既定圧力より８５%以下になりましたら交換が必要です。

4．修理を依頼される前に

□高圧洗浄機の調子の悪いときは修理を依頼される前に次の順序で点検を行ってください。
点検された上で、なお異常のある場合や不安定な箇所が有りましたら、そのままの状態にして、お買い上げの販売店または弊社営業所へご相談ください。

問　題	原　因	対　策
吸水しにくい 吸水しない	・吸水ホースのストレーナが完全に水中に沈んでいない。	・ストレーナを完全に水中に沈める。 ・清水を補給する。
	・ストレーナ、ラインストレーナの目詰まり。	・ストレーナを清掃する。 ・ラインストレーナを清掃する。
	・吸い込み揚程が大きすぎる。	・吸い込み揚程を２m以内にする。
	・吸水ホースの接続不良。	・ホースの接続を確実にする。 ・パッキンを確認する。
	・吸水ホースの損傷。	・吸水ホースを交換する。
	・吸水・吐出バルブの作動不良。 ・ゴミが詰まり。	・バルブの点検・清掃を行い、必要であれば交換する。
圧力が上がらない	・ストレーナ、ラインストレーナの目詰まり。	・ストレーナを清掃する。 ・ラインストレーナを清掃する。
	・吸水ホースの接続不良	・ホースの接続を確実にする。 ・各部のパッキンを確認する。
	・吸水・吐出バルブの作動不良。 ・ゴミが詰まり。	・バルブの点検清掃を行い、必要であれば交換する。
	・プランジャパッキンの損傷。	・プランジャパッキンを交換する。
	・不適切なガン、ノズルを使用。	・適切なガン、ノズルを使用する。
	・ノズル穴の摩耗。	・ノズルを交換する。
	・圧力調整の不良。	・圧力調整を行う。
圧力が安定しない	・吸水ホースのストレーナが完全に水中に沈んでいない。	・ストレーナを完全に水中に沈める。 ・清水を補給する。
	・ストレーナ、ラインストレーナの目詰まり。	・ストレーナを清掃する。 ・ラインストレーナを清掃する。
	・吸水ホースの接続不良。	・ホースの接続を確実にする。 ・パッキンを確認する。
	・吸水・吐出バルブの作動不良。 ・ゴミが詰まり。	・バルブの点検・清掃を行い、必要であれば交換する。
エンジンが始動しない。	・エンジンの取扱説明書を参照してください。	

●お客様メモ

後日のために記入しておいてください。
お問合せや部品のご用命の際にお役に立ちます。

製造番号:

購入年月日:　　年　　月

お買い求めの販売店:

Asada アサダ株式会社

本　社／名古屋市北区上飯田西町3-60　TEL(052)911-7165　E-mail:sales@asada.co.jp

支　店／東京・名古屋・大阪

営業所／札幌・仙台・さいたま・横浜
広島・福岡

www.asada.co.jp

海外事業所

アサダ・タイランド社　(バンコク)
台湾浅田股份有限公司　(台　北)
アサダ・アーロンコ マシナリー社　(クアラルンプール)
アサダ・ベトナム社　(ホーチミン)
アサダ・インド社　(ムンバイ)
上海浅田進出口有限公司　(上　海)
アサダ USA　(オレゴン州・ユージン)

工　場

犬山工場　(愛知県・犬山市)
第一精工株式会社　(松　阪　市)
アサダ・マシナリー社　(バンコク)

コード No. HD03121　PRINT No. 150300SU